

■九条道家 公卿。岳父となった関東申次西園寺公経と連携して、朝幕間を仲介し、権勢を振るったが、失脚。

くじょうみちい

- 1193= 九条良経の長男に生まれる。母は一条能保の女で源頼朝の姪にあたる。
- 1194= 1歳：祖父兼実にかきとられて育てられた。

源頼朝没・1199= 6歳：

1202= 9歳：

執権政治始・1203=10歳：元服。禁色を許され、正五位下に叙された。

その後侍従・左中將を経て、

新古今集・1205=12歳：従三位、権中納言に任せられ、公卿として出発。

モンゴル帝国・1206=13歳：摂政していた父が急逝したため、家を継ぐ。その後も官途は順調で、左大將を兼任、

専修念仏禁止1207=14歳：正二位、

1208=15歳：権大納言、

1209=16歳：同母妹立子(後の東一条院)を皇太弟守成親王の妃とし、

1210=17歳：順徳天皇即位後、中宮となる

1211=18歳：

方丈記・1212=19歳：内大臣、

北条頼朝権確立1213=20歳：

職人歌合せ・1214=21歳：右大臣に任ぜられ、

室は関東申次をつとめた西園寺公経の女編子、編子の母は、道家の母の妹全子で、道家の従妹にあたる。

1218=25歳：左大將を辞す。立子所生の皇子懐成親王(のちの仲恭天皇)が皇太子となると東宮博を兼任、叔父の左大臣九条良輔が没すると、おそらく岳父西園寺公経の力で、左大臣に転任。

源実朝暗殺・1219=26歳：將軍源実朝暗殺に、源氏の遠縁理由の幕府の請に岳父公経が奔走、第三子頼経を東下させ、

愚管抄・1220=27歳：

承久の乱・1221=28歳：仲恭天皇が踐祚して摂政に任ぜられるも、まもなく承久の乱で後鳥羽上皇側が破れて、仲恭天皇が廃されるとともに、摂政を罷免され、氏長者も廃されるが、

北条政子没・1225=32歳：しかし、北条政子が没すると、

公家將軍始・1226=33歳：頼経が正式に征夷大將軍に任ぜられ、岳父公経が関東申次として朝廷の実権を握り、

1228=35歳：近衛家実にかわり*関白に任ぜられるに至る。

1229=36歳：長女?子を入内させ、

1230=37歳：立后して中宮となる。

1231=38歳：病のため、関白を長子教実に譲るが、従一位に進み、その後も“大殿”と称して政務の実権を握り、?子に皇子が生まれると、皇太子とし、

御成敗式目・1232=39歳：すぐに即位して四条天皇となり、その外祖父としてますます強大化、教実も摂政に任ぜられ、

1233=40歳：?子に院号宣下あって藻壁門院となるが、直後に死産の影響で死去。

1235=42歳：*教実が夭折したため、摂政に還任し、摂関の地位を独占。幕府に後鳥羽上皇・順徳天皇の帰京を打診。

1236=43歳：夢のお告げで、法性寺の中に、東福寺堂塔建立を構想、

1237=44歳：娘仁子を左大臣近衛兼経の室とするとともに、摂政を兼経に譲り、近衛家との融和を図る。

鎌倉大仏始・1238=45歳：*法性寺で出家したが、“禅定太閤”として、なおその権勢は盛んであり、

1239=46歳：東福寺堂塔建立に着手、大仏殿上棟。

1241=48歳：*故教実の娘彦子(のちの宣仁門院)を入内させて四条天皇の女御としたが、

北条泰時没・1242=49歳：天皇が夭折したため、外祖父としての地位を失う。皇嗣として順徳院の皇子で外甥にあたる忠成王を推すも、幕府に反対され、土御門院の皇子邦仁王が後嵯峨天皇となり、その権威には翳が見えはじめ、不仲であった次子二条良実が岳父西園寺公経の後押しで関白に就任、

鎌倉大仏完成1243=50歳：東福寺落成、円爾弁円を開山とする。

九条頼嗣將軍1244=51歳：公経の死去で関東申次を継承するが、北条氏に迫られて頼経が將軍職を子の頼嗣に譲って隠退、

1245=52歳：綸旨奉じて後嵯峨天皇の讓位を幕府に申し入れ、

北条時頼執権1246=53歳：周囲の反対を押切って、寵愛する三子一条実経を良実にかえて関白とし、後深草天皇が即位するとこれを摂政とするなど権勢を振るうが、執権北条時頼を除かんとする名越光時の陰謀が発覚、これに関係した頼経は京都に送還されると、その背後で画策したとして、関東申次を罷免され、

宝治合戦・1247=54歳：*摂政実経も解任される。嫌疑を晴らすべく、多くの起請文を寺社に納めるも、失脚は決定的となる。

1250=57歳：失意の中、九条家一門の建直しのため惣処分状を作成、結果として、九条・一条・西園寺家に保護された二条家の三家分立の契機となる。

1251=58歳：將軍頼嗣の周囲に幕府転覆の陰謀が起こると、その嫌疑をかけられ、

皇族將軍始・1252=59歳：急死した。